



1 最近の様子

もうすぐ赴任して1年になります。東ティモールにも馴染み、海岸沿いの綺麗な大自然、一方で道端に大量に落ちているゴミなども受け入れながら生活しています。

それでも子ども達が時折みせてくれる得意げの笑顔や今まで見たことがないものなどを探しながら、残りの東ティモールでの生活を楽しまたいと思います。



木の上に家を作ると得意げの子供達

2 配属先の活動「地方」



- ディリ-バウカウ間、約120キロ、車で約5時間
- バウカウ-ラガ間、約30キロ、車で約1時間
- ラガ-ロスパロス間、約100キロ、車で約2時間
- ディリ-バリボ間、約100キロ、車で約5時間
- バリボ-マリアナ間、約30キロ、車で約1時間

今月もスタディツアーに同行させていただき、地方に行ってきました。地方へは道路がきちんと舗装されていないため、距離の割に時間がかかるのと、道中の山岳地帯の道路の横はすぐ崖で危険と隣り合わせです。

今回は、ソプラノ歌手の宮良多鶴子さんと沖縄の学生2名で、バウカウ、ラガ、ロスパロスまで行ってきました。目的は主に沖縄の伝統工芸品である紅型（びんがた）と呼ばれる染色の体験と竹細工の紹介を通した日本文化の交流です。

(1) カノッサ修道院（バウカウ）

ここは女子学生が共同生活をしながら勉学や裁縫などを学んでいます。ここでは約100人の学生が紅型や竹細工を体験してくれました。また、学生達はこの地区に伝わる伝統的なダンスを見せてくれ歓迎してくれました。



みんなで竹の指輪つくる様子



おかずは味付け白菜

(2) 孤児院（ラガ）

両親のいない身寄りのない子ども達、約200人程度で共同生活をしています。ちょうど食事の時間にお邪魔したら、おかずの量の少なさに驚き、栄養のある食事を食べさせてあげたいと思いました。到着し、すぐに無邪気な笑顔で子ども達が手を握ってきました。

(3) 小学校 (ロスパロス)

警察の立会いのもと道路を封鎖してのセレモニーで盛大な歓迎を受けました。伺った学校の校長先生も日本に行ったことがあるようです。



「伝統ダンスでの歓迎」と「紅型のコースターの体験」

学校の先生とお昼ご飯をご一緒し、困っていることを聞いてみたところ、校舎の屋根修理と学校周りの交通整理が必要だそうです。雨漏りがひどく授業ができないこと、バイクや車が多く走るようになり児童の事故が増えていることが問題のようです。その他にも日本と交流したいとも話していました。

3 隊員とマリアナにあるマロボ温泉へ

休みを利用して地方にあるマロボ温泉に行ってきました。地方に行く際にはよくレンタカーを利用するのですが、今回はバスを利用し、ローカル感の満載の旅となりました。車内では、足元に寄ってくるニワトリに加えて大音量の音楽で寝ることができません。エアコンも付いておらず、窓や出入り口の扉は開けばなしです。舗装されていない道も通ることから到着するころには埃まみれで疲労困憊でした。



移動で利用したバス



バリボでは日本軍の進路が展示されました

(1) 首都ディリからバリボへ (バスで約5時間)

道中のバリボという町は、戦時中にオーストラリア人のジャーナリストが犠牲となり映画化された「Balibo5」の舞台となった地域です。首都ディリと違って気候は涼しく、空気も綺麗です。

(2) バリボからマリアナへ (アングナで約1時間)

アングナと呼ばれるトラックを貸し切り、荷台に乗っての移動です。ここマリアナには協力隊員も2名在中しいますが、首都ディリと違い食品や生活用品なども揃わない中での生活には頭が下がります

(3) マリアナから目的地のマロボへ (アングナで約1.5時間)

日差しが強くなる早朝にマリアナを出発しました。高地のため、近くの山に雲がかかる綺麗な景色を眺めながら、しかし、道が悪いので荷台から落ちないようにしがみつきながらの移動です。途中からとてつもなく体が冷えましたが、温泉は温かく最高でした。《第11号終わり》



マリアナにある日本のODAで作られた水路



「アングナ」トラックの荷台に人が乗り込みます



マロボ温泉では約10ヶ月ぶりに湯船に浸かりました